

## 文化芸術の拠点 久居アルスプラザ

津市の文化芸術振興の拠点として期待される施設、久居アルスプラザの運営は、民間事業者の持つさまざまなノウハウを活用しようと、津市の文化施設としては初めて民間事業者が施設の管理運営を行う指定管理者制度が導入されました。今回の市長対談では、久居アルスプラザの館長・脇岡宗一さんに、今後の運営方針や地域とのつながりについてお話を伺いました。

**市長** 久居アルスプラザは、老朽化が著しい旧久居市民会館に代わるホールを旧久居市役所跡地に新築したものです。

平成24年の劇場法(劇場、音楽堂等の活性化に関する法律)施行後、津市で初めて建設され、法律の高い理念を展開する拠点の一つとなりうる高度な機能を備えた文化施設です。

**脇岡** 劇場法とは「ホールを活性化して、地域へ貢献する」ということだと理解しています。そして、指定管理者制度もこれを実現するための重要なツールであるべきだと思います。当社(ケイミックスパブリックビジネス)も多くの施設を指定管理者制度に基づいて運営していますが、制度ができる前と比較してみると、人の配置や効率的な運営、企画や情報発信など多くの点で成果が現れています。

また、ホールへ地域住民を呼び込

むことはもちろん、ホールから地域住民に向けて積極的にアプローチしていく姿勢も大切だと考えています。

**市長** 久居アルスプラザが質の高い文化芸術の鑑賞や文化活動のお披露目の場であることはもちろん、気軽に立ち寄れる日常の居場所としてもご利用いただきたいと思います。

**脇岡** 久居アルスプラザは、さまざまな利用の仕方を可能にする多くの設備を併せ持ち、市民の皆さんが音楽に集まるスペースとして、地域のにぎわいを創出するというコンセプトがよく表現されている施設です。これらをどのように使っていくか、わくわくすると同時に責任を感じているところです。「ときの風ホール」はオーケストラピットや前舞台などの多様な舞台機構や、最新の舞

台機器があるので、これらを活用した企画を進めていきます。ギャラリーでの広いスペースを生かした絵画等の展示や、ロビーでのフリーマーケットなど楽しみが広がります。

**市長** 久居地域は、「ひさい音楽祭」「四季の彩り祭り」「ひさい版仮装大笑」などがあり、文化芸術活動が非常に盛んな地域といえます。

地域の伝統ある文化芸術活動をときの風ホールで開催したり、ロビーで催しをしたりすることが、久居アルスプラザを生き生きとした場所にしていくと思います。地域との関わりについてどのようにお考えですか。

**脇岡** 地域の文化を受け継いでいる催しを大切にしながら、音楽、美術、舞踊、カルチャーなど地域の

市と連携し、地域の賑わいを創出したたいを

久居アルスプラザ館長

**脇岡 宗一さん**

WAKIOKA SOUICHI

1948年広島県生まれ。首席オーボエ奏者として東京交響楽団などで活躍。2005年高知大学教授に就任し、地元ホールとの協働で高知ジュニアオーケストラを設立するなど音楽文化の発展と青少年の育成に寄与。2018年にケイミックスパブリックビジネスに入社し、北九州ソレイユホールの館長として地域の文化芸術の振興に尽力。



ARS PLAZA